

## 課外活動で自己成長できた 大学生活

現代中国学部4年竹内 魁伸

私は2021年に大学に入学したが、その時の世の中は「緊急事態宣言」「蔓延防止等重点措置」「今日の感染者はXX人」という言葉が飛び交っていた。大学も遠隔授業が増加し、週1回程度しか大学に行けない時期もあった。何をすることも「中止」「延期」「自粛」が続いていたある日、「人生に1度の大学生生活を無駄にしているのか」と思い、課外活動に積極的に参加することを決めた。そしてここまで「1年に3つ以上の課外活動に参加」という目標を掲げ、継続してきた。今回は代表して2つの組織が主催している活動について紹介する。

### ① CAREER FIELD（本学キャリア支援課）

2019年度より行われているプログラム。最大の特徴は1、2年生が対象で、低年次のうちから社会人基礎力の養成や自身のライフキャリアを考慮することができる点である。1年次に、企業を取材してそこで得た成果を就活生に向けてプレゼンテーションをする活動に参加した。初めて出会うメンバー4人とチームを組み、特に私以外の3人は年上だったため最初は遠慮もあったが、活動を共にしていくなかで徐々に意見を言えるようになった。そしてプレゼン終了後、「分かりやすかった」という言葉をいただいたことが、その後の活動の大きな自信に繋がった。

### ② 愛大米プロジェクト（本学キャリア支援課）

同じくキャリア支援課の活動だが、こちらは「在学生×卒業生・社会をつなぐ」をコンセプトに行われている。3年次に「愛大米プロジェクト」に参加し、戸田川緑地公園（名古屋市中川区）の市民水田で田植えに挑戦した。活動を通

じて、田んぼに入ったときのあの何とも形容しがたい感覚を味わったり、活動に参加していたメンバーと協力したりして、広大な田んぼに苗を植えていったことは印象に残ったと同時に、約半年間に渡り、その成長に携わることができた嬉しさを感じた。なお収穫した米の一部は、名古屋市内の社会施設へ寄付を行い、その模様を中日新聞に取材された。



↑取材風景。取材では企業の方に質問をする役割を担った。

大学生生活は自由だ。アルバイトや趣味に充てるのも大事だが、このような大学が主催する課外活動に参加して、貴重な経験を積んだり自身のスキルアップに繋げる時間にも割いたりしてみるのもおもしろいと思う。



↑「愛大米プロジェクト」。田植えだけでなく、稲刈りや田んぼの生き物の観察も行った。